

542 大腿骨頭壊死症のMRI

○清水耕、蓑島聡、宇野公一、有水昇（千葉大放射線科）
守田文範、植松貞夫（同放射線部）勝呂徹（同整形外科）

今回我々は、大腿骨頭壊死症のMRIにつき検討を加えたので報告する。対象は昭和60年5月より昭和63年4月までに、千葉大学病院にてMRIを施行した45例61関節である。原因疾患としてはステロイド投与によると考えられる症例が大部分であり、SLE患者が大部分を占めていた。使用機種はPicker社製Vista-MRで、撮像条件はT1強調SE及びT2強調SE、撮像断面は冠状断、水平断、矢状断について検討した。臨床症状、単純X線所見、MRI所見との比較を行った結果、大腿骨頭壊死症の早期診断におけるMRIの有用性が確認された。また、MRI上骨髓内出血と考えられる所見を呈する症例や、大腿骨頭頸部より遠位部の変性を疑わせる症例も認められ、一部病理所見、硬組織所見との対比も加えて報告する。